みなさんこんにちは市長です。

桜の花がまだ残る 4 月 16 日に湯布院に新しい文学の館が誕生しました。「走れメロス」「斜陽」「人間失格」などで有名な私小説作家太宰治が東京の杉並区で下宿生活をしていた宿「碧へきうんそう雲荘」が、由布岳が望める高台に移築されました。

杉並区では再開発のため、この「碧雲荘」の取り壊し等の話が持ち上がっておりました。この建物を保存したいと切望されている方から、旅館を経営されている橋本律子さんに是非引き取ってほしい、「このことが出来るのはあなたしかいない、お願い！」と言われ、友人の言うことだからと引き受けたそうです。柱など当時の材料を全部使い、間取りも全く同じだそうです。”彼がトイレから富士山を眺めた“と言われる場所からは、今、豊後富士の異名を持つ由布岳が望まれます。また各部屋ではゆっくりと読書が楽しめるようになっています。

この日は、東京都杉並区の田中区長さんもわざわざ来られて感謝とお祝いを述べられました。また当日来られた議員さんからもこれを縁に交流を始めましょうとのお話もありました。これから文学を愛し興味を持つ方たちがたくさん訪れて、湯布院の新たな魅力を感じて欲しいものです。

魅力といえばわが家の”ツノシャクナゲ“がこれまでで最高と言っていいほど大きな花を 70 近く咲かせ輝いています。一人で感動するのももったいないので、つれあいにも声をかけ一緒に愛でました。２月に少しの肥料を与えたからかも知れません。「ありがとう！」と思わず声が出ました。

春野菜の土作りも 4 月 23 日に完了です。いよいよこれから忙しくなります。

【最近の市長公務の様子】

ゆふいん温泉まつり（平成 29 年 4 月 23 日開催）



